

## トアール、トアール不思議で魅力的な空間

寒さが峠を越え、ホッとしています。真冬のコートを着ることもなくなりました。太原でひと冬を乗り越えた自信が漲ってきます。最近の悩みは、寮でゴキブリと鉢合わせることが多いこと。冬場はそれほどでもなかったのですが、暖かさとともに増殖している模様。そもそも寮自体、お世辞にもキレイとは言えないので、仕方ないのかもそれませんが、残り3月、悩みに種のなりそうです。

### 【3月のトアール一週間】

	日	月	火	水	木	金	土
7:00							
8:00							
9:00		必須中国語 口語	必須中国語 総合	必須中国語 総合	必須中国語 総合	必須中国語 口語	
10:00		朗読空間 での 音読練習	朗読空間 での 音読練習	必須中国語 精読	必須中国語 精読	必須中国語 総合	朗読空間 での 音読練習
11:00							
12:00							
13:00	朗読空間 での 音読練習			マンツーマン 音読指導	朗読空間 での 音読練習	朗読空間 での 音読練習	マンツーマン 音読指導
14:00							
15:00			選択科目 HSK4級	朗読空間 での 音読練習			山西大学 日本語 サークル 活動へ参加
16:00							
17:00		マンツーマン 音読指導			マンツーマン 音読指導		
18:00	寮での音読練習						
19:00							
20:00					選択科目 HSK5級		
21:00							
22:00							

今回は図書館内の「朗読空間」というところのお話。ここは、コンビニの半分くらいの広さの空間で、自由に声を出ることができるため、音読練習にもってこいの場所です。というよりは、音読練習をする人のために作られた空間です。日本の図書館ではあまり見たことがありません。多い時は10人近くが密集、少ない時はひとりになることもあります。



留學生活も後半戦に突入、冬休み期間中、あまりにもヒマだったために、今後の勉強方法について熟考しました。その結果、「話す」「聞く」「読む」「書く」のうち、「話す」（音読練習）と「聞く」に的を絞ることにしました。日本人にとって弁慶の泣き所です。「聞く」に関しては授業や生活そのものが勉強なので、特に対策はありません。昼休み、食堂に一時間座っているだけで、授業では学べない、生きた中国語がバンバン耳に入ってきます。そして中国語で一番重要と言われる「発音」にすべてをかけることにしました。前半戦も自分の勉強時間の半分は音読練習に費やしていたのですが、その割合を90%まで引き上げることにしました。「読む」「書く」といった文法の勉強は、試験対策には重要で、つつい勉強した気分になってしまうのですが、試験で高得点を取ることが今回の留学の目的ではありません。文法の勉強は長年、日本でさんざんやってきたのですが、結局のところ中国語はモノにならなかったのが、残り三カ月、文法の勉強は思い切って割愛することにしました。街角ですれ違った小さな子供が、我々が日ごろ勉強している文法を駆使して、苦も無く中国語は話しているのを見て「何でこの子はこんなに中国語を話せるんだろう??」と考えました。細かい文法を気にしながら喋っている子供などいるはずがありません。結局、周りの人間の言葉を聞いて真似して喋っているだけだ、と気が付きました。原始的な方法ですが、中国語を喋れるようになるには、これしかない！と感じました。こうした勉強方法について中国語総合担当の先生に相談したところ、「OK！」のお墨付きもいただきました。「あなたの発音キレイだね！」と一度だけネイティブに言われたことがあり、とても嬉しかったこと

を覚えてイグアナ。そして、ネイティブの友人に頼み込んで毎週一時間、それぞれマンツーマンで徹底的に発音指導を受けることにしました（発音指導を引き受けてくれた4人には感謝百倍です！）。私が教科書の気に入った文章を徹底的に音読練習し、それをネイティブの前で披露、間違いや悪い発音を指摘してもらおうという按配です。

その毎日の音読練習の場所として利用したのが「朗読空間」です。毎日最低2時間はここで声を出して中国語の音読練習すること残り3カ月間、最低限のノルマとしました。寮でも音読練習は可能ですが、寮での練習では、ネイティブと知り合う機会はゼロです。「朗読空間」ではネイティブと知り合う機会が多いな、と直感しました。この場所を利用する理由のひとつは、ネイティブと知り合うことにあることは言わずもがなです。案の定、私が音読練習を始めると、一瞬、周囲の関心が私に注目するのをビシバシ感じます。実際、何度も声を掛けられました。

大学3年生のCさんは、そんな中で出会った一人です。ある日、私の音読練習が一段落すると見るや否や、「中国語を勉強しているんですか〜？どちらからいらしたんですか〜？」と飛びっきりの笑顔で話しかけてきました。私も思わず頬が緩み、すぐに意気投合、ネイティブとの楽しい会話が始まります。彼女の専門はロシア語。「あれ、あの人は何語を練習しているんだろうか？」と私の方も少しばかり気になっていました。

「同じ外国語を学ぶ人間としてあなたの苦労はとてもよくわかります。私で力になれることは、いつでも何でも相談してください。」と今の私に一番うれしい言葉をかけてくれました。6月まで定期的・継続的な発音のマンツーマン指導をお願いすると、速攻でOKしてくれました。

またある時、この空間から突然、流暢な日本語が聞こえてきました。これには、おったまげてチョンマゲ。私から話しかけずにはいられませんでした。Dさんは日本語を専攻する1年生、近々、音読のテストがあるのでその文章を繰り返し練習していました。こちらもしっかり意気投合、お互いに母国語を教え合うバーター取引が即成立、週一回の練習を約束してくれました。若さゆえの怖いもの知らずなのか、日本語の難しい質問を容赦なく、私に投げ掛けてくるので、こちらが答えに窮することもあります。現在、日本語の先生は3人いるが、そのうち日本人の先生はたったひとりしかいないので、日本人との交流を渴望していたそうです。日本と日本語が大好きで、私との出会いは、正に「渡り哲也に舟」だったそうです。彼女の指導は4人の中で一番厳しく、少しの誤りも見逃してくれません（とても有難いお話です）。

こういった何のしがらみも利害関係もない、素朴で純粋な出会い・交流というのは、留学ならではの醍醐味である気がします。この年になって、このような素晴らしい体験ができることに心から感謝の気持ちでいっぱいです。ネイティブと過ごす時間はこの上なく楽しい。毎回、1時間の約束なのですが、1時間で終わった試しはなく、2時間を超え、そのまま一緒に晩御飯を食べたこともあります、なお、この2人のほか、昨年知り合ったネイティブ2人にも6月までの定期的・継続的な発音のマンツーマン指導を依頼、こちらも快く引き受けてくれました。

Eさん；トアール人の紹介で知り合った彼女。外見とは裏腹に、とても繊細で優しい。成績優秀で発音は4人の中で彼女が一番キレイです。友達が多く、姉御肌の彼女です。

Fさん；中国に渡って間もない頃に、キャンパス内の売店で支払いに困っている私をフォローしてくれた彼女。専攻は何と考古学。とても恥ずかしがり屋さんですが、私の発音が悪いと、怖い顔でビシッと指摘してくれます。

### 私にマンツーマンで発音指導してくれる素敵なステキな4人のネイティブ



Cさん



Dさん (右)



Eさん



Fさん

★トータル日の食事

- ①朝（学内） 西門食堂の朝食セット。お粥、「油条」という揚げパンのようなもの、ゆでたまご。3元。  
安過ぎです。
- ②昼（学内） 最近ハマっている麻辣拌という麺料理。日本の丸亀製麺のイメージで具材を自由にチョイスして精算する方式。野菜がたくさん摂れ、ご飯が無料がついてくるのがうれしい。15元。
- ③夜（学外） 韓国人のクラスメートに連れて行ってもらった韓国料理店のカレー。味が極めて日本的、あ  
る一週間は5回も通ってしまった。他の料理も絶品！12元。

この日の食事代合計 30元（1元≒20円）

①



②



③

